

ギャラリー Paw 2015.6.19-28



最終日は三味線と書のコラボパフォーマンス。
(左) 奏者の久保比呂誌さん、(右) 郡さん。

作品のクオリティーはもちろんのこと、来場者参加型の企画に三味線の演奏と書のコラボパフォーマンス。展示を見に来てくれた人に楽しんでもらいたい。その想いには一切妥協しない書志デザイナー・郡實さん。そして郡さんの要求にどこまでも応える詞紡人・川畑誠さん。限界まで挑戦する二人が生み出す作品はとにかく深い。作者二人が揃った最終日にお互いの胸の内を語ってもらった。

これぞ創る楽しさ。今を生きること。突き詰めると陰の存在が見えてきた。

——お二人の独特な肩書きはどうやって生まれたんですか？

郡「最初は書家デザイナーだったんですよ。だけど、なんか書家っていうと一般的にも長年やって書道にすごい通じて書道一本ってイメージが先行しちゃったり、その道の方から見たらそんなん書家じゃないって思われる方も多々いると思うんです。それで違うのをつけようとしてたときに別件でパフォーマンスの依頼があつて、『志』って字を調べてたらすごい良い意味やつたから、書を志すって意味で書志にしよう。志は心を伴って歩いて行くっていう意味合いのものなんで。心が大事だ」と。



川畑「志って、常にそこに向かってっていう強さがありますよね。だからもう、びつたりなんだろうなって思います。俺の詞紡人というのは、ほんとにノリだったんです。当時は小説も並行して書いてたんですが、詞(ことば)を紡ぐ人ではないんじゃないかって。単純に詞を紡ぐ人だったら誰でもなれるじゃないですか。しゃべってる段階ですうですからね。たいそうな名前はつけたくなかったんで。それで詞紡人って漢字を、俺の中では『ことばつむぎびと』と思つて郡に送つたら「ええやん、しほうじん。異邦人みたいで」って返つてきたんです。え？しほうじんって読むんや。それええかもつて(笑)。それからですね。」

——自然でたいそうじゃない人と、すごく心が入ってる人とのコンビなんですかね？

川畑「郡は昔から仲間内でもアイデア的に群を抜いてるんです。やるわー、よく出てくんなその発想って。こんな凡人相手ではええんかなつて本気で思いますもん(笑)」

郡「いやいやいや。(誠と)やれるんやったら来年もやりたい。俺も、ただ手先が器用なだけで才能あるなんて思わへんもん、全然。自分ではなかなか気づかへんからね。」

川畑「お互いになくなって思うんですよ。俺も、誰が詩を書いて郡がやればこんだけ見せられるんじゃない？って思つてしまふんです。でも、だから去年と今年やってみて、見てくれた人の言葉を聞くと嬉しいし、ああ自分がやっていいんやって思える。これはほんとにすごくありがたい。」

——今回の作品は陰陽五行説がベースになっていますが、前回作品の『お陰様』にも陰陽の『陰』の字が入ってますね。そこも何か共通のテーマのような、重ね合わせたところがあるんですか？

郡「まあ、重ね合わせたというよりも常に陰の存在を大事にしたいんで。だからリンクはもちろんしてますね。昨日の書道パフォーマンスでまず『陰』を書いて、今日は『陽』を書いて、二つで一つになって完成なんです。気づいたら『陰』の文字のなかに『今』という字が入ってるなど。だから、なんでしようね、パフォーマンスで先に陰からスタートするのはある意味良いなつていう。陰に今あり。」

川畑「うわ、名言や。陰に今ありつてカッコいいな。」
郡「話して今出た(笑)」

川畑「すつげえ解る気がする。たぶん陽って人は作ると思うんだけど、作られた陽なんだと思うんだけど、陰の部分が本当の人なんじゃないかと俺も思う。だから陰に今ありつてそういうことなんだかな。つてのは、今、俺も出た(笑)。」

本編では前回の展示についての考えや今回の作品が完成するまでの二人のやりとりを収録しています。ときには迷走、ときには以心伝心。自分が創っているわけでもないのに、聞いているだけでゾクゾクしてくるお話です！



ギャラリーの前で。(左)川畑さん(右)郡さん。
二人は小学校の頃からの幼なじみ。



取材協力：ギャラリー Paw
芦屋市精道町 2-15
TEL/FAX 0797-32-1791

